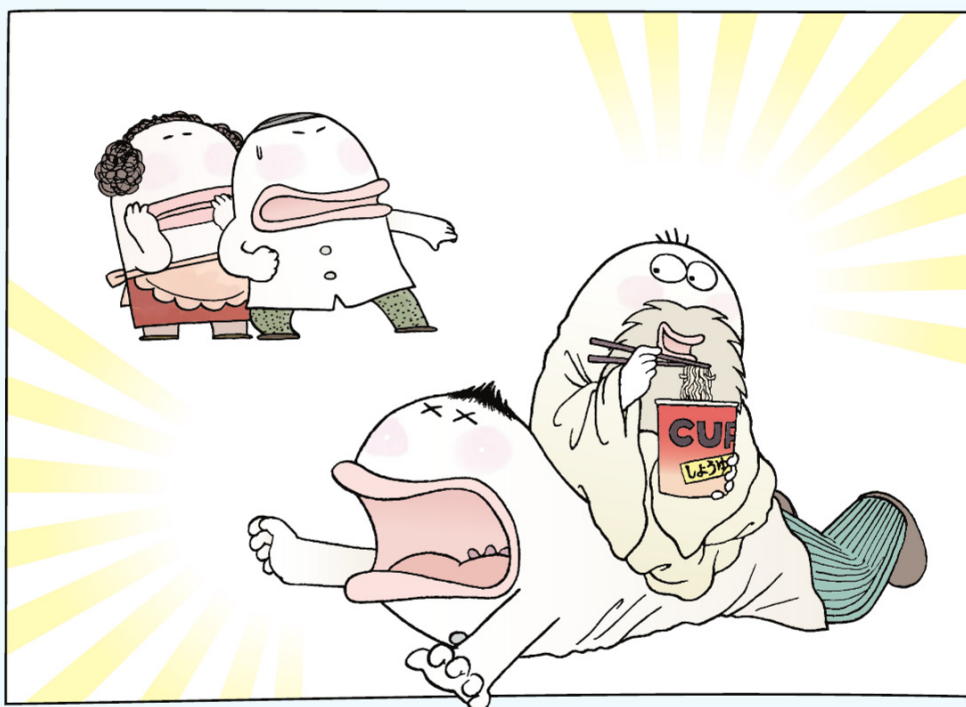


第1話

ご先祖さま登場！



総論 学習内容

- 中医診断学の原理と原則

明時代末期の
中国・金華——

医家である姜景楽は数名の
弟子を従え医業を営んでいた

ばかもの！

虚証の患者にこのような
薬をだしてはいけない
のがわからんのか！

大夫
そんなに怒ら
なくても

ううっ！

どうしました？

大夫！

う～ん

わーっ！
中風※だー！

※中風 中医学病名で現代の脳卒中に相当する

慌てるでない
いま処方を書く

すごい 中風発作の最中に
自ら処方するだなんて
まるで名医
孫思邈そんしほくのようだ

ウフフ～
もっと言って～

言うんじゃ
なかった

サラ
サラ…

サラ
サラ…

さあ… これを…！
はやく煎じるのじゃ…！！

フーッ

フーッ



現代——
乾くんが働く杏林堂薬局

やっと
お昼だ〜！

今日は好物の
ラーメンを
食べよう



イテテ
ここはどこじゃ？

どこじゃないよ！
僕のラーメンが台無しに
なったじゃないか〜

わーっ

仕方ない
新しいのを開けるか

ブッ

ブッ

ジャー

ピピピ...

ズル
ズル

なんじゃ
それは！？

インスタント麺
ですよ

いんすたんと？

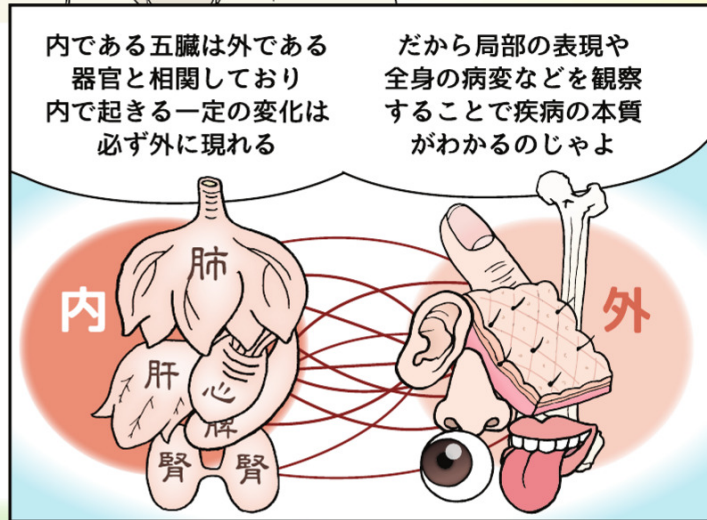
そういえば
見渡せば
見慣れない
ものばかり...

もしや
わしは...

わしは...







中医診断学の原理

病状から
本質を読み
取る原理は
この3本柱
から成る

- ① 外から内を知る**
 - 外=表面に現れる病理変化
 - 内=臓腑など内在する病理の本質

症状から内在する病理の本質がわかる
- ② 微から著を知る**
 - 微=局部・不明瞭な変化
 - 著=全身・明瞭な変化

局所的な変化は全身の情報を含み、
微細な変化から全身の状態がわかる
- ③ 常から変を知る**
 - 常=健康・生理的な状態
 - 内=異常・病理的な状態

正常な状態と病理的な状態を対比して
疾病の本質がわかる

五臓は体の各部位と
連絡しているから
体表にあらわれた
病変から
病の本質を
知ることが
できるのか

原理は至って
シンプルだよ
でも実際に診断すると
なると何をどうして
いいやら

??

簡単じゃよ
この3つの構成を
踏まえるのじゃ



中医診断学の構成

① 四診運用

望診・聞診・問診・切診によって総合的に整体を観察する

② 疾病診断

病種から疾病を判断して疾病に共通する一定の病機・病邪・病位などを診断する

③ 証候弁別

八綱を基礎とし病因・病性・病位・病機・病勢などから分類する

これら3つの
構成には的確に行う
ための原則が設け
られておる
この原則に沿って
診断すれば疾病の
本質が掴みやすくなり
効率よく治療が
できるんじゃよ



中医診断学の原則

① 整体観察

整体観と
天人相応観を
基礎に
観察を行う



② 四診合参

望・聞・問・切診による
綿密な観察から情報を得て
全面的な疾病診断を行う

じろ じろ



③ 従病弁証

「病」と「証」を総合して診断する

病	証
消渴	陰虚
黄疸	湿阻
自汗	腠理不固

この「病」
とは中医学に
おける病じゃ



う〜ん
一気にダーツといわれても
頭に入ってこないよ〜



中医の診断学の概要については
わかったよ でも僕が知りたいのはさ

どうしたらおじいさん
みたいに見たり聞いたり
触ったりして体の
ことがわかるように
なるかなんだよね

ブッヒャヒャ

みたところ四診が
そりやお前さん まったくなくておらん
まず診断の土台となる
四診を頭に入れて
患者の観察に自信を
もつことじゃよ





